

# 衣服を通じて

## 環境の大切さを伝えたい

有限会社 村田堂

明治二十二年の創業以来、一貫して学生服の販売を行っている有限会社村田堂は、ペットボトルや衣服のリサイクルについて、子どもたちに環境教育を行っています。今回は、その活動内容について、同社取締役の長屋博久さんにお話を伺いました。

——環境教育に取り組みようとしたきっかけは？

●長屋 家業である村田堂を継ぐ前に、大手繊維メーカーに十一年間勤務し、リサイクル商品の開発を担当していました。そこで得た繊維やそのリサイクルについてのさまざまな知識を社会のために生かしたい、誰かに伝えたいという思いがありました。

そうした中、西宮市にあるNPO法



お話を伺った長屋博久さん

人ごども環境活動支援協会（LEAF）に、中学校をご紹介いただき、「環境教育」の事前授業を行ったのがきっかけでした。平成十六年十二月から、近隣の京都市立御所南小学校などで、合計五回の授業を行ってきました。

——授業ではどのようなことをお話されているのですか？

●長屋 小学生から高校生までを対象に、いくつかのテーマで授業を行います。小学校の授業ではペットボトルのリサイクル実験を行います。ペットボトルを破碎したものをアルコールランプの熱で溶かし、そこから繊維を作るといった実験を子どもたちに体験してもらっています。リサイクル技術の一端に触れることで、子どもたちが様に驚きの反応を見せてくれることや、関心をもってくれることが嬉しく、やりがいにもなります。

ほかにも、衣服のリサイクルや天然繊維をテーマに授業を行います。共通して子どもたちに伝えたいことは、こ



同社は、日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会の「繊維くすから船をつくるプロジェクト」に参画し、古着をリサイクルして全長約360cmの船を製作

みを出さないように生活習慣を見直すことが一番大切だということです。みんな一人ひとりが、ごみを減らしたり、再利用を実践することこそ意味がある」と伝えていきます。それが、私の環境教育のポリシーともいえます。

——「服育」ということも提唱されていますね。

●長屋 わが社には「衣服を通じて、人を育て、人を創る」という経営理念があり、企業活動において最も重視していることです。「衣服」を通じて環境問題や社会性、マナーについて、次代を担う子どもたちに伝えていきたいと考えています。若者の服装の乱れも指摘されていますが、地元の中学生に対して、制服の着こなし講座も行っていきます。京都には多くの観光客がいらつしやいますが、服を正しく着こなし、気持ちの良い服装

でお客さまをお迎えることは「おもてなし」の精神にもつながると思います。

——今後の意気込みを教えてください。

●長屋 「衣食住」という言葉がありますが、「食育」や「住環境」を子どもたちに伝えるために多くの方々が活躍され、そのすそ野も広がっています。しかし、「衣」の部分はまだまだ弱いように感じます。この京都が「服育の街」となることを目指し、私とその担い手となっていきたいと考えています。衣服をキーワードに子どもたちに地球環境の尊さを伝え、地球上の生き物や環境について、広い視野と高い関心をもってもらいたいですね。



ペットボトルのリサイクル実験の様子

### 有限会社村田堂 会社概要

代表取締役	長屋吉彦
創業	1889年（明治22年）
業種	男女学生服および学生衣料販売 ユニフォーム全般の企画・製造・販売
URL	<a href="http://www.muratado.co.jp/">http://www.muratado.co.jp/</a>

■長屋さんの「服育」の取り組みは、同社のホームページに詳しく掲載されています。ぜひ、一度ご覧ください。